

Special Interview

IMALUさん

タレント

留学を通して、
外国の方たちの良さと
日本人としての良いところを
両方知ることができました

個性的なファッションや、洋楽を日本人離れした発音で歌い上げる歌唱力で注目を集めるIMALUさん。そのセンスには、高校3年間のカナダ留学で見たもの、聞いたもの、感じたことなどがたくさん息づいています。多感な高校時代にIMALUさんがカナダでの生活で発見したものは何だったのでしょうか。今回から2回にわたってお話をうかがいます。

構成・文/中原紫恵
写真/鈴木真子(ひび写真事務所)
スタイリスト/水嶋和恵
ヘアメイク/アオタマユミ

PROFILE

IMALU (いまる) さん

1989年9月19日生まれ。東京都出身。中学卒業後、語学を学ぶためカナダの高校へと留学。帰国後、2009年にファッション誌でモデルデビュー。その後、シンガーやタレントとしてTVや雑誌、ラジオなどに活躍の場を広げる。2017年からアーティストLULU Xとしてのプロジェクトをスタート。ご両親は女優の大竹しのぶさんとコメディアン of 明石家さんまさん。

“外国人になりたい！” 幼い頃からの海外への憧れ

——高校時代をカナダで過ごされたそうですね。留学したきっかけを教えてください。

実は高校が初めてではなくて、初めての留学は中学1年生の時の2週間の短期留学プログラムでした。サマースクールでカナダにホームステイしたんです。

私は小学校の頃から洋楽が大好きで、歌詞をノートに書き出して意味を調べたりしていたんですね。そこから英語に興味を持って、外国に憧れて、外国に住みたい…“外国人になりたい”（笑）と思うようになりました。

私があまりにも憧れていたのも、それを知っていた母がサマースクールを勧めてくれたんです。その頃はまだ自分の年齢の「thirteen」の発音も怪しいくらいで、2週間は現地の語学学校に行きましたが、英語は全然わからなかったです。どうやってコミュニケーションをとっていたのかなと思うんですけど、終わる頃には「帰りたいくない」と泣いちゃったくらい、楽しい時間を過ごしました。



外国の学校の憧れのひとつだった卒業前のパーティー「ブロム」でドレスアップ。思い出の校舎の前での1枚。

——それで高校はカナダに留学しようと思われたのですか？

その後も長い休みにはほかの国にも行ってみたいして、進路を決める時に自然な流れで留学が決まりました。映画も好きで、ティーン映画を観てから外国のハイスクールに憧れが強くなっていました。『“ジリリリリー！”ってうるさいベルが鳴ったら、大きいファイルを持って教室を出る。自分のロッカーをガチャって開けると、かわいくデコレーションしてあって、彼氏や友達とはそのロッカー前で待ち合わせ』みたいなイメージで。（笑）

当時テロなどの影響でアメリカのビザが厳しくて諦めて、スイスかカナダとなった時に、やっぱり中1の良い思い出が忘れられずにカナダに決めました。

——学校はどのように決めましたか？

都会すぎず田舎すぎない場所というリクエストを出したら、バンクーバーアイランドという島のビクトリアという街を紹介されました。海があり、緑があり、山もあって、定年した年配の方がたくさん住んでいる平和なところ。でもダウンタウンやモールもあって、希望通り適度ににぎやかでした。学校はビクトリアの中でもいちばん生徒数の多い大きな学校に行きました。現地の生徒がほとんどですが、日本人、韓国人、中国人、メキシコ人など、いろいろな国からの留学生がいましたね。

——この時もホームステイだったのですか？

はい。私の学校は公立だったので寮がなかったんです。ホームステイをして滞在中には4つのファミリーにお世話になりました。ホームステイは人と人との関係なので相性の合う・合わないもありますし、仲良しになったけれど、学校から遠くて不便ということもありました。冬にお家がすごく寒くて、自分でヒーターを買って使ったら「電気代が高くなった」と怒られて、凍えて過ごしたこともありましたが…。3年間同じお家で過ごした友達もいま

したが、いろいろな家庭が見られたし、大好きな人たちに出会えたので、私はよかったと思っています。

——留学の準備はどんなことをしましたか？

中学校時代は短期留学の後、週に1回くらいのペースで英語のレッスンを受けていたんですが、ペラペラ話せるほどではなかったです。ただ、やっぱりずっと洋楽の歌詞や映画で英語に触れていました。週に6本レンタルして毎日観るほど、中学時代は映画熱が高かったんです。好きな映画は何度も繰り返し観ていました。内容がわかったらその後は英語字幕で観て、わからない単語を調べたりもして。勉強は得意ではなかったんですが、好きなことへの好奇心はすごく強くて、自然にそんなことをしていました。

バラ色の ハイスクールライフが 一転、ホームシックに

——留学の目的は、やはり英語の習得ですか？

はい。とにかく英語を話せるようになりたくて留学しました。学校で良い成績をとるとかいうことよりも、とにかくまず友達を作ることが目標でしたね。そのためにも、日本人同士では過ごさないようにしていました。せっかく留学しているのに、自分の国の人とグループを作ってしまう人たちっているんですよ。母国語のほうが絶対に楽し、共感し合いながら話せるから、そこに逃げたくなるのはわかるんです。でも、私はせっかくカナダにいるんだから、カナダ人の友達と過ごそうと決めて。ラッキーなことに、同時期に留学した日本人の友達がみんな同じような考えを持っていたので、みんなで「カナダ人の友達を作ろう！」って励まし合って、話しかけに行ったりしていました。

——憧れた外国の高校生活はどうでしたか？

『うるさいベルが鳴って、大きいファイルを持って自分のロッカーに行って…』というのは、「映画で見てた世界！」と感動しましたね。でも、教科書がすごく分厚くて重いので、そのためにロッカーがあるんだという現実がわかりました。(笑) 授業ごとに次の教科書を持って教室を移動しなくてはならないので、ロッカーが必要なんですよね。

憧れの生活は嬉しかったんですが、最初は英語でとても苦労しました。それなりに英語に触れていたのに、向こうに行ったらまったく理解できなくて…。日本の英会話の先生ってゆっくり話してくれてるんですよ。ネイティブの人が普通に話すスピードでは速すぎて聞き取れないし、高校生の使う言葉は日本で習っている英語とは違うんですよ。日本語にも若い子たちが使うだけだの“若者言葉”があるように。たとえば授業で習う「遊ぶ」という単語って「play」ですよ。でも友達と「今日遊ばない？」みたいなニュアンスで使う「遊ぶ」は、「hang out」とか「chill」とかになります。「chillしない？」みたいな感じで言うんですよ。習ってない…！(笑) こういう日常会話の言い回しは、映画が役に立ちました。最初は本当に全然わからなかったの、「私が勉強していた英語って何だったんだろう」と、すごくびっくりしました。

そんな状況で2か月くらい経って、やっと学校にも慣れてきた頃、ホームシックになってしまいました。大好きで、憧れて、行きたくて留学して、夢見た生活をできてハッピーなんだから絶対になるはずないと思っていたのに。学校がストライキで1週間くらい休みになったら、やることがない中で急に気分がズドンと落ちてしまったんです。同期の留学生がみんなバタバタ倒れていくようにホームシックにかかりました。シックって病気という意味ですけど、本当に伝染病みたいでしたね。

その時は、「日本語を話したい」「日本語が聞きたい」「日本食が食べた



い」「日本に帰りたい」しか考えられなくて、日本人の友達に電話をして「日本に帰りたいね…」ってネガティブな話ばかり。悲しくて毎日泣いていました。洋楽が好きすぎて留学したくせに、その時は日本で昔聞いていた音楽を聴いたりして。

——どうやって乗り越えたのでしょうか？

時間とともにだんだん普通になっていった感じです。2週間くらいは落ち込んでいて、3週間目くらいから普通になっていったかな。でもクリスマス休暇が終わった時に、また少し学校が嫌だなんて思ってしまったりもしましたけど。

その後しばらくして、1年目の後半くらいで友達ができてきてからは、どんどん楽しくなっていました。

自分の殻を破って 友達づくりに奮闘

——1年目の後半ということは、半年くらいかかったのですよね。友達はどうやって作りましたか？

私の存在を知ってもらうところからのスタートですから、お家に遊びに行くとか一緒にランチするくらいになるまでは、それくらいの時間がかかりましたね。

まず顔を覚えてもらうために、とにかく、いろんな人に話しかけて、話しかけて、話しかけました。日本のよう

に毎日同じメンバーのクラスの教室にいれば、すぐに顔は覚えてもらえるでしょうし、話すチャンスも作りやすいと思います。でも向こうの高校は、大学みたいに自分で授業を選択して時間ごとに自分がとっている先生の教室に行くシステムなので、クラスメイトに会える時間が少ないんです。ただでさえ友達を作りづらいのに、英語というハンデがあるのでとても苦労しました。

友達になるには自分から話しかけるしかないの、何かきっかけを作ろうと思って、本当は消しゴムを持っていても「消しゴム忘れちゃったから貸してくれる？」と頼んだりしていました。何でもいいんです。「そのバッグかわいいね」とか「そのイヤリングどこで買ったの？」とか、一言でも話そうにしているうちに顔を覚えてくれるようになりました。

ビクトリアは東京に比べて田舎で、お店で売られているものもそこまで豊富ではなかったので、日本から持って行ったものはすごく興味を持たれました。洋服や靴、ネイルとか、「どこで買ったの？」って聞かれるものは全部日本のものなんです。かわいいものが好きな子がすごくうややましがって、「カワイイものは全部日本のじゃん！ずるい！」って言っていましたね。日本のものは珍しくて目立つので、知らない人に道で話しかけられることもありました。コミュニケーションツールとして、日本のアイテムにはずいぶん助けられたと思います。

— 今のIMALUさんの印象では、人に話しかけるのはそんなに大変そうに感じないのですが。

私はもともとすぐ人見知りだったんです。小さい頃からすぐ恥ずかしがりやで全然人と話せなかったんですよ。母の知り合いの方がいて挨拶しなさいと言われても、母のロングスカートの中に隠れてしまうくらい。中学の頃も友達はいましたけど、自分からフレンドリーに話すタイプではなくて。留学中に「話しかけなくちゃ!」と自分を奮い立たせて行動したことで、人見知りを克服することができました。留学をしていなかったら内向的なままで、たくさんの人に会う今の仕事はできなかったと思うので、本当に良かったです。

遠いカナダで 自分と日本の 新たな一面を知る

— 留学で発見したことを教えてください。

日本人って優しいんだなと気づきました。留学生が来ていたら、みんな話しかけたりしてたなと思いついて。向こうでは話しかけてきてくれたりしませんでしたから。もちろんカナダ人が優しくないという意味ではなくて、日本人の気遣いのあり方を見直したというか。それから、日本のことを聞かれても答えられなくて、自分が日本のことを全然わかっていかなかったんだなということもわかりました。

一方で、カナダ人の良さも感じました。向こうの子は「私は私」「僕は僕」って自立していて、授業でも意見をたくさん求められます。日本では意見を聞かれても答えたくない子が多いと思うんですが、向こうではみんなははっきり自分の意見を言います。そして先生はどんな意見であろうと否定はせずに「君はそう思うんだね」と黙って聞く。私は海外のアーティストが自分の意見をはっきり言うことに憧れていたんで

すが、自分をしっかり持っていることはやっぱりいいなと思いました。

こんなふうに海外の人の良いところと日本人の良いところを両方吸収できたのは、すごくプラスになりました。年齢的にも15歳から18歳という人間性が作られる時期だったので、人が変わったと言えるくらい考え方が変わったと思います。私もはっきり自分の意見を言えるようになりました。あの留学の3年間でなかったら絶対に今の私はいないと思っています。本当に大きな経験です。

— 英語力の変化は怎么样了か?

速すぎて聞き取れなかったのは、時間とともに少しずつわかるようになっていきました。でも、言葉や発音が合っているかどうかをすごく気にして話すことがなかなかできなくて。たぶん、日本人にはそういう人が多いのではないかと思います。今思うと、発音が良くなくても、言葉が間違っても、文法がわからなくても、どんどん言葉を発する人は会話ができているんですよ。

友達ができたら、英語の間違いを良い意味でいじってくれるようになったんです。「その言葉、違うよ」とか「その発音、超カワイイんだけど!」とかジョークにもらえるようになって、本当の友達ができただなと思いました。…あまりに言われちゃうと、バカにされてるなと思って少し腹が立ちましたけど。(苦笑) いじられキャラというか、そういうキャラクターになってしまっただけはためらわずに言葉を出せるようになって、話す力もついていきました。友達ができたらとても楽しくなって、それからは高校生活を思い切りエンジョイしました。

苦労しながらも努力の末、憧れのカナダのハイスクールガールとして打ち解けたIMALUさんのその後のお話は、次回に続きます。この経験がどのように今に生きているのか、次号をお楽しみに!

Advice ♡

考えずに喋ってしまうことが英語上達のキーです。私はシャイで考え過ぎちゃうタイプだったので、一歩の大きな勇気が必要だったのですが、話すことで友達ができ、教えてくれる人も増えて、また話す機会も増えて、どんどん英語力が上がっていくと思います。単語を勉強しなくても、発音が良くなくても、いろんなところに行って、何も気にせず話しましょう。話したい、伝えたいという気持ちがあれば伝わります。



衣装協力

インナー/ Aries(Comcode inc.) 03-6434-7136 トップス、スカート/ KOTONA 03-6804-2309

ピアス/ 77TH(H3O Fashion Bureau) 03-6712-6180 サンダル/ ESPERANZA(ESPERANZA ルミネエスト新宿店) 03-3341-6150